特集 800号記念特集

順天堂医学. 2005, 51
P. 442~443

『順天堂医学』に望む—発刊800号を祝して

— 順天堂医学の歴史 —

小川 秀興*

HIDEOKI OGAWA

『順天堂医学』は明治20年(1887年)1月に発刊した『順天堂醫事研究会報告』を第1号と数えてから2005年に発刊する『順天堂医学』第51巻第4号をもって通刊800号となる。

その間に当初の『順天堂醫事研究会報告』から『順天堂醫事研究会雑誌』、『順天堂医学雑誌』、『順天堂医学』とタイトルを変えてきた。現在の「巻、号」がついたのは1955年1月に『順天堂医学雑誌』が発刊されたときであった。この時の学長有山登先生はこの雑誌を『順天堂醫事研究会雑誌』の復刊とみなして、通刊591号とした。

有山学長は「発刊の辞」で、「わが順天堂は、遠く百数十年から単に診療のみならず新しい医学の輸入ならびに教授に力を致してきた。この伝統を有する順天堂が明治の前半すでに有力な研究機関誌をもっていたことは故なしとしない。即ち、『順天堂醫事研究会報告』は明治20年に創刊され、以来わが国医学界に貢献するところがあったが、昭和18年戦争のため第590号をもって一時休刊のやむなきに至った。戦争終了とともにわが国の医学研究機関は困難な研究、出版事情下争うて業績発表のための専属誌を刊行し、医学界は戦前に勝る活気を呈した。順天堂においても早速旧誌復活の議が起こったのであるが、旧誌の誇りを辱めぬまでに内容を高めるために拙速を避けて、研究の陣容および施設の一層の整備にしばらく自重

して、ここに『順天堂医学雑誌』と名を改めて、刊行の運びに至った次第である」とのべる。復刊したとき、順天堂大学の機関誌にふさわしく『順天堂医学雑誌』と改めた。さらに第9巻が出た1964年に『順天堂医学』と改称して現在に至った。

ところで、明治20年(1887年)1月に発刊した『順天堂醫事研究会報告』を第1号と数えているが、それ以前の順天堂における研究会、或いは会報のような物は如何であったか、それを医史学の開祖とでも言うべき小川鼎三先生と、酒井シヅ先生が詳細に検索・検討されている。その詳細は700号記念特集の『順天堂医学』発行目録として一覧表にて記載されている。それによれば、『順天堂醫事雑誌』として明治8年(1875年)10月にその第1号とも言うべき物が既に発刊されている事が明確に記されている。それは湯島5丁目13番地、佐藤尚中蔵版とされ、東京馬喰町2丁目、英蘭堂より発行された物が第1巻と記されている。次いで第2巻は翌11月、第3巻が12月、第4巻は明治9年2月と続き、第8巻は明治10年に刊行されている。その明治10年までは佐藤尚中先生(順天堂第2代堂主)が何らかの形でリーダーシップを取られていたことは間違い無いことである。

その後、順天堂醫事研究会の塾生・門下生が集まり、各種通知文・総会の記事・講義の記録・順天堂手術傍観記事・雑録・会員姓名等が、明治18年4月18日に順天堂醫事研究会の雑誌『報告』第1集として刊行され、明治19年12月に至るまで計39集が刊行されている。この順天堂醫事研究会の

*順天堂医学会名誉会長
学校法人順天堂理事長
順天堂大学学長
〔Dec. 7, 2005 原稿受領〕

会長は佐藤進（順天堂第3代堂主）、副会長佐藤佐、幹事大瀧富三、阿久津資生、会計川目正邦ということ等が明確に記されており、佐藤進先生を中心に行われた講義を、或いは会員間報告が主体をなしている。佐藤進先生などがリーダーシップを取られているが、実務的な研究会は阿久津資生氏を中心に行われていたもの、と考察されている。

『報告』によると、毎土曜に行われた報告会には佐藤進先生が出席して講義を行い、会員の研究報告等で熱気に溢れていた。最新知識を求めて、順天堂に集まってきた人々の意気込みを『報告』の隅々に感ずることができる。内容は水準の高い講義報告内容、実習報告等であった。会員数は150名余にのぼったと記されているが、会員外でその通覧を求める者が多く、それ故に明治20年に『順天堂醫事研究會報告』の発刊を当局の許可を得て、全国に有料にて頒布することにした次第であろう。それは全国津々浦々まで運ばれて、日本の医療の水準を高め、順天堂の名を高らしめたに違いない。

本誌『順天堂医学』800号を記念しての特集を編するにあたり、『順天堂医学』の歴史について改めて調べ直してみた。幸い、医史学の酒井シヅ客員教授がご健在で、『順天堂医学』の端緒を明治20年（1887年）としたのは官許を受けて創刊

された物を第1号と考えた訳であり、それ以前、即ち官許に先立つ明治8年（1875年）から10年（1877年）まで『順天堂醫事雑誌』を計8巻発行し、次いで明治18年（1885年）から19年（1886年）まで会員限定配本として順天堂醫事研究會の雑誌『報告』を計39集発行していたことを実物の本を示され、明らかにされた。これらの歴史の整理は『順天堂医学』700号記念特集の414ページに小川鼎三先生、酒井シヅ先生の御努力により、年表化されている。従って、明治20年官許第一号以前に、8巻+39集、合計47冊が刊行されていることは明らかである。『順天堂医学』の歴史は明治8年に遡り、そこより通算すると847号に当たる。即ち、『順天堂医学』800号は官許であり、順天堂としては847号、その歴史は佐藤尚中、進先生の時代にまで遡るものと考察される。

小文を認めるにあたり、順天堂大学医史学酒井シヅ客員教授の御努力に改めて深謝する次第である。

最後に、800号刊行を記念して小職として諸氏に提言することは、『順天堂医学』の前の雑誌は如何なる名前と呼ばれていたのかということは文献を遡及する上で重要になるので、それを然るべき場所に本誌の医史学的意義も付して本号より記載して戴きたい。